

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
39	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
Cigarette smoking, alcohol drinking, and oral and pharyngeal cancer mortality in Japan. 日本における喫煙、飲酒と口腔・咽頭がん死亡率	
執筆者	
Ide R, Mizoue T, Fujino Y, Hoshiyama Y, Sakata K, Tamakoshi A, Yoshimura T; JACC Study Group.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Oral Dis. 2008 May;14(4):314-9.	
キーワード	
飲酒、喫煙、口腔ガン、咽頭ガン、死亡率、生活習慣、日本、疫学	
要旨	
<p>目的： 喫煙および飲酒と口腔咽頭癌発がん性の関連を前向きに検討するため、に日本全国におよび大規模コホートをを用いた。</p> <p>方法： 40-79歳の男性 34,136人と女性 43,711人のデータを本研究の解析対象とした。コックス比例ハザードモデルを用いて、男女別に喫煙や飲酒の口腔・咽頭がんの相対リスク (RR) と 95%信頼区間 (95%CI) を求めた。調整変数として年齢、緑茶摂取、塩辛いものの好み、緑黄色野菜摂取量を用いた。</p> <p>結果： 現在喫煙のと口腔・咽頭がんによる死亡リスクは非喫煙者と比較して、男女ともに高かった。RRは男性で 2.6 (95%CI: 1.0-6.7)、女性で 8.2 (95%CI: 2.1-32.1) であった。1日あたりのアルコール摂取量 46g以上の男性では口腔・咽頭癌リスクは約3倍に増加した。両方の要因に同時に曝露することは、口腔・咽頭がんリスクの有意な上昇と関連した (RR: 3.3, 95%CI: 1.1-9.6)。</p> <p>結論： 本研究の結果は、喫煙および飲酒の口腔・咽頭での発がん効果について支持するものである。</p>	